

# しみん基金・KOBÉ NEWS

第 28 号

2012 年 8 月発行



特定非営利活動法人 しみん基金・こうべ

〒651-0095 神戸市中央区旭通 1-1-1-203(サンピア 2F) TEL 078-230-9774 FAX 078-230-9786

e-mail kikin@stylebuilt.co.jp URL <http://www.stylebuilt.co.jp/kikin/>

## 審査員になることで、見えてきたこと



「審査員のみなさん、前のボードに持ち点となるシールをはってください。」しみん基金・こうべの助成事業審査会の中で緊張がピークに達する瞬間である。公開プレゼンテーションを終えた申請団体の方の視線が痛いほど集中しているのを感じながら、審査員は自分が選んだ団体にシールを貼る。そして全員が見ている前で助成団体が決定する。誰の目にも決定までのプロセスが明らかである。そして落選した団体にとっても、自分たちの申請内容のどこが採択団体と違うのか、自ら気づき、学び、そして交流までもできる仕組みとなっている。しみん基金・こうべの助成事業の審査会は単に公開性や透明性が高いだけでなく、その存在自体が市民活動団体を育成しているといっても過言ではない。

私が「しみん基金・こうべ」助成事業の審査員となったのは、「さんぴいす」を立ち上げて、今以上にファンドレイジングに走り回っている時期だった。最初は、とてもお引き受けすることはできないと考えお断りする予定だった。しかし、いつもは審査される側の私が審査員となることで、今後 NPO が社会からの認知度を高めていくために必要とされる「要素」とは何かということを経験し、それを NPO 全体に広めていくことを目指そうと考えた。

審査する側となってわかったことは多々ある。まず、「公益活動に対する熱意」は、どの団体も持っているもので、これは審査として比較対象になりがたいということ。言い換えれば、いくら熱い思いがあってもそれだけでは、その事業は市民に普及できないということである。社会情勢が大きく変わった今、「熱意」だけでは共感は広がらないことを私たち NPO は認識しなければならない。東日本大震災以来、「今私にできる最善のことは何か」が問われている中、共感を広げるための「リアリティあるしかけ」が必要とされているのではないかと。例えばその事業を経験した市民が「いいね！」ボタンを気軽に押すことができるといった「しかけ」もそのひとつ。だからこそ事業計画書の中に、事業終了後にも「共感が広がる」しかけを用意することが必要なのだ。

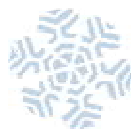
しかし団体の多くは、事業を実施するというにとらわれ、その事業を行うことでの社会全体への影響まで予測されていることはほとんどない。NPO が市民活動を行う際には事業を実施するだけでなく、その活動が継続的に広がることを意識した事業計画を作る必要がある。そのためにも、誰が見てもわかる収支計画の立て方は重要な要素と言えよう。

これらのことは、机上では理解しづらいので、「採択」「不採択」がその場ではっきりとわかる「しみん基金・こうべ」の審査会こそが、これからの新しい市民活動を育成し、そして自主的に学べる場と私は考える。そして、この「場」が高いオウリティを継続していくためには、審査員こそ常に高いレベルでの評価ができるよう日々研鑽をつんでいかなければならない。

河口 紅 ((特活)さんぴいす・代表/しみん基金・KOBÉ 審査員)

### 主な目次

- |                                  |   |
|----------------------------------|---|
| ◆ 平成 24 年度定時総会報告 - - - - - 2~3   | ◆ しみん基金 KOBÉ 活動報告 - - - - - 4             |
| ◆ 平成 24 年度はあ~とふるファンド支援事業結果報告 - 3 | ◆ ずっと・こころ・つなぐ基金創設記念上映会&シンポジウム - - - - - 5 |
| ◆ 平成 24 年度助成事業のご案内 - - - - - 4   | ◆ 17 年目のひとり言 - - - - - 6                  |



# 特定非営利活動法人 しみん基金・こうべ

## 平成24年度定時総会報告



5月31日(木)18:00より当基金事務所にて平成24年度定時総会を開催し、平成23年度事業報告並びに決算報告、平成24年度事業計画並びに予算計画、役員任期満了に伴う改選について、出席正会員数27名(委任状19名を含む、正会員総数41名)で審議承認されました。概要は以下のとおりです。

### 平成23年度事業報告並びに決算報告

平成23年度は延べ21の個人又は団体より、総額¥3,675,575の寄付・募金を託して頂きました。そのうち、7月に開催した「東日本大震災被災者支援/日本を元気に!チャリティコンサート」の実施で、¥1,526,530のご寄付を頂き、被災者支援のボランティア活動のために設置された特定枠の助成金として活用いたしました。皆様の暖かいお志に心より感謝申し上げます。

平成23年度の助成事業では、12団体(一般枠:8団体、特定枠:4団体)の各事業に合計2,970,000円(一般枠:1,480,000円、特定枠:1,490,000円)の助成金を交付しました。

昨年度に引き続き、NPO法人パブリックリソースセンターとパナソニック(株)のご協力を得て、「NPOマネジメント支援コンサルタント養成入門講座(西日本地区版)」を実施しました。

### 平成23年度収支決算(概要)

< 経常収支の部 >	
【経常収入】	5,867,265
事業収入	1,107,200
会費収入	631,000
寄付金・募金収入	3,675,575
その他の収入	453,490
【経常支出】	7,131,810
事業費	3,260,092
管理費	3,871,718
経常収支差額	1,264,545
前期繰越収支差額	11,347,045
次期繰越収支差額	10,082,500
< 正味財産増減の部 >	
【正味財産増加の部】	2,402
【正味財産減少の部】	1,334,200
当期正味財産増加額	1,331,798
前期繰越正味財産額	36,494,354
当期正味財産合計	35,162,556

なお、詳細な事業報告及び決算報告は当基金のホームページの下記URLに掲載しています。

[http://www.stylebuilt.co.jp/kikin/about/plan\\_report.html](http://www.stylebuilt.co.jp/kikin/about/plan_report.html)

### 平成24年度事業計画並びに予算計画

助成事業は総額300万円で、従来からの一般枠に加え、対象を「東日本大震災で被災した人々を支援するボランティア活動」とした特定枠を設定します。

「東日本大震災被災者支援ボランティア活動基金(愛称・ずっと・こころ・つなぐ基金)」を設置します。この基金への寄付を呼びかけるためのひとつの方法として、映像作品の上映と被災者支援を行った人たちによるトークを組み合わせたサロンを定期的・継続的に開催します。上記の特定枠の助成金は、同基金から拠出します。

### 平成24年度基本方針

平成23年を振り返りますと、まず昨年3月11日に発生した東日本大震災では、その被災者を助けたい、何か役立つことがしたい、という多くの人々の想いに基づく、国内外から過去に類をみない金額の義援金・支援金が集まり、また被災地応援ファンドなど多様な支援的資金循環のしくみが生み出されてきました。また、昨年6月にはNPO法と寄附税制が改正され、市民活動への寄附を支える法的基盤整備が進みました。

その意味で、昨年は寄附が動いた1年であり、「寄附元年」とも呼ばれています。「ボランティア元年」と呼ばれた17年前の阪神淡路大震災後の復興の経験から、市民自らが寄附を出し合って市民活動を支え合うという主旨で誕生した「しみん基金・こうべ」の精神が、このたびの東日本大震災でも大きなうねりとして表出されたとも言えるでしょう。

しみん基金・こうべでは、昨年7月に神戸新聞社等との協働で、東日本大震災の被災者を支援するためのチャリティコンサートを実施し、その収益金(約150万円)による指定寄附に基づき、被災した人々を支援するボランティア活動へ助成する特定枠を設置し、従来からの一般枠と合わせて、昨年度に引き続き「次代の市民活動の担い手育成を重視する」というテーマを掲げながら、助成事業を実施しました。そして、10月に開催した公開審査会の結果、12団体(一般枠:8団体、特定枠:4団体)の各事業に合計297万円(一般枠:148万円、特定枠:149万円)の助成金を交付し、助成を受けられた団体の活動を通じて、17年前のKOBEでの経験が、このたびの震災被災者支援に活かされるようになってきました。

但し、一方で上記のイベント開催以外での寄附はあまり増えることなく、多様な寄附機会の提供などの寄附拡大策は未着手のままです。また、寄附を受け入れやすい環境を整えるための認定NPO法人格取得等についても、準備を進めることができないままです。

そこでこの状況を変えていくために、平成24年1月より事務局機能の整備に取り組み始めました。

今年度の事業計画では、この事務局機能の整備を受けて、以下の4点を重点項目といたします。

- (1) 認定 NPO 法人格取得に取り組むなどのことを通じて、組織の基盤強化を図る。
- (2) 引き続き被災した人々を支援するボランティア活動へ助成する特定枠の設置やフォローアップ力の強化など、助成事業の充実化を図る。
- (3) 多様な寄附機会の開拓・企画・提供や寄附者にわかりやすいホームページの改訂などのファンドレイジング力の強化に取り組む。
- (4) これらのことを実現するためのネットワークを築いていく。

平成 24 年度事業計画 (概要)

- 1 助成事業
  - ア) 本体助成事業
    - イ) はあ〜とふるふぁんど支援事業 (受託事業)
- 2 社会貢献活動促進事業
  - ア) 青少年フィランソピエ意識醸成支援
    - イ) CSR 活動支援
- 3 寄付・募金活動
  - ア) 直接寄付
    - イ) イベント募金 (こうべあいウォーク、**ずっと・こころ・つなく基金創設プロジェクト**等)
    - ウ) 職域募金 (あじさい基金)
    - エ) 協働企画寄付システム (古着リサイクル寄付等)
    - オ) 寄付ページの改訂、新寄付システムの企画等
- 4 啓発・講座事業
  - ア) **寄付文化醸成セミナー** (県地域づくり活動支援事業)
    - イ) NPO マネジメント支援コンサルタント養成入門講座
- 5 運営管理業務
  - ア) 広報・情報発信 (ホームページ、ニュースレター等)

- イ) ネットワーク活動・スタッフ研修等
- ウ) 文書整備等 認定 NPO 法人格取得準備
- エ) 総会・理事会・四役運営会議

平成 24 年度収支予算 (概要)

【経常収入】		8,181,000
会費収入	1,250,000	
事業収入	2,131,000	
寄付金・募金収入	3,440,000	
その他の収入	360,000	
繰入金	1,000,000	
【経常支出】		10,181,000
事業費	5,771,000	
管理費等	4,410,000	
経常収支差額		2,000,000

役員任期満了に伴う改選について

今年度より以下の皆さんに役員を務めて頂きます。任期は2年間です。

理事長	黒田裕子	理事	飛田雄一
副理事長	村井雅清	理事	福原敏晃
専務理事	瀬戸口仁三郎	理事	室崎益輝
常務理事	野崎隆一	理事	吉本悦
理事	渥美公秀	監事	森田拓也
理事	石本章宏	監事	佐藤庸安
理事	戎正晴		(以上の方は、再任)
理事	大谷敦子	理事	芦田俊
理事	奥井秀樹		(以上の方は、新任)

## 平成24年度 はあ〜とふるふぁんど支援事業結果報告

平成 24 年 1 月 16 日～3 月 16 日に申請受付しました「はあ〜とふるふぁんど」支援事業に、今年は 186 団体からご応募を頂きました。「はあ〜とふるふぁんど委員会」による厳正な審査の結果、下記の 48 団体に支援金を交付することになりましたので、ご報告いたします。なお、6 月 15 日にクラウンプラザホテルで、下記団体の皆さんにご出席頂き贈呈式を行いました。

【ふるさと振興サポート部門】 (25 団体)  
 シルキー生命の森づくり実行委員会、(特活)あわじ FAN クラブ、六甲山大学実行委員会、神河町観光協会、ベルディ・エン×ゲキ・プロジェクト 2012、ベル演奏グループ「ティンカーベル」、和田山地区料飲組合、播磨の黒田武士顕彰会、竹野海岸を美しくする会、小野商工会議所、(特活)アートクルー堀川、うずしおの郷地域振興協議会、柳学園中高ジャズバンド部、神話の島・夢舞台実行委員会、龍野若竹会、はりまデザインラボ、(特活)高砂物産協会、因幡街道三宿場協議会、(特活)KOKORO 和 KOBE、神戸ドキュメンタリー映画実行委員会、第 6 回全国校区・小地域福祉活動サミット in KOBE・ひょうご実行委員会、市川町観光協会、一般社団法人淡路島レジャー振興協会、ダイナマイト・W・F・C ダイナマイト W・F・C・Jr、丹波篠山・まちなみアートフェスティバル実行委員会

【ボランティアあしすと部門】 (23 団体)  
 友愛訪問ボランティア銭太鼓同好会、兵庫県中小企業団体中央会、兵庫県社会就労センター協議会、(特活)ふくろう、銀の馬車道ガイド交流会、東方文化芸術団、八幡こども見守り隊、山南町ボランティア連絡協議会、傾聴ボランティアグループよりそい、NPO 交通事故サポートプログラム兵庫、(特活)兵庫県若者らの自立を考える連絡会、兵庫県手話サークル連絡会、神戸中央おやこ劇場、音楽ボランティアほっこり、(特活)くろーばー、一般社団法人日本障害者乗馬協会、アジア女性自立プロジェクト、ひまわり医療生協ひまわり聞き書き隊、朗読ボランティアかしの実グループ、高齢者福祉を考える会、中播磨心的障がい者就労支援協議会、鼓四季

## 平成24年度しみる基金こうべ・助成事業のご案内

しみる基金こうべの助成事業が今年も始まりました。地域の中で様々な障壁に立ち向かいながらも、社会的課題の解決に自律的に取り組んでいこうとされる市民活動の芽生えを、市民自らの手でお互いに支えあい大切に育てていこうという「草の根」支援が当基金の精神です。

これまでに、延べ136団体に累計4,800万円以上の助成金を交付してきました。この財源は、市民一人ひとりからの暖かいお志によるもので、助成先選考にあたっては市民目線での審査を公開の場で実施してきました。

今年も、「次代の市民活動の担い手育成を重視する」という年度基本方針を掲げ、総額300万円の助成金交付を予定しています。また、従来からの分野を限定しない一般枠とともに、「ずっと・ところ・つなぐ基金」(P4参照)に積み立てられた寄附金に基づいて被災した人々を支援するボランティア活動へ助成する特定枠を設置します。合わせて、申請書を作成されるにあたっては、申請団体向けに個別相談会(要予約)も実施します。

応募要項の概要は以下の通りですが、詳細は応募要項(「助成のしおり」)がございますので、ご連絡頂ければご送付します。また、当基金のホームページからもダウンロードできるようにしていますのでご活用下さい。応募要項をご熟読いただいた上で、ご応募いただきますようよろしくお願い申し上げます。

### 概要

助成額:1団体あたり事業費総額の4分の3以内かつ上限50万円。

選考方法:原則として、書類審査・ヒアリング調査の上、公開審査会でのプレゼンテーションにより決定します。

助成対象:神戸市及びその周辺地域に住所を有する非営利団体(法人格の有無は問いません)

助成枠:ア)一般枠:活動分野に限定はありません。

イ)特定枠:東日本大震災で被災した人々を支援するボランティア活動に限定します。

優先事項:選考にあたっては、市民社会の確立・存続にふさわしい草の根性、開拓性・先駆性、団体としての継続性、地域との連携・協働を図るものを、優先します。

### スケジュール

平成24年7月25日～8月24日:個別相談会(原則要予約)

7月25日～8月31日:応募申請受付期間

9月中旬:書類審査

9月下旬～10月上旬:ヒアリング調査

10月30日:公開審査会

11月上旬:覚書締結・助成金交付

\*

平成24年10月1日～平成25年9月30日

:助成事業実施期間・中間ヒアリング

平成25年10月末日:最終報告書提出

平成25年12月頃:助成事業成果報告会

### しみる基金・KOB E の活動報告(2012年4月～7月)

【イベント・講演・研究会他】

4月3日 はぁ～とふるふぁんど委員会・予備審査会

4月26日 はぁ～とふるふぁんど委員会・最終審査会

5月22日 試写会「東北再興の記録3.11」等@ギャラリー島田

5月23日 特定非営利活動促進法に係わる諸手続に関する説明会 主催:内閣府 @大阪

6月1日 CSR調査事業打合せ @CS神戸

6月5日 芦屋消防協会定時総会、黒田:記念講演

6月12日 市民ファンド共同広報事業・運営委員会

6月15日 はぁ～とふるふぁんど支援金贈呈式 @クラウンプラザ神戸

6月20日 講座事業:受講者募集(～7月17日)

6月23日 「ずっと・ところ・つなぐ基金」創設記念上映会&シンポジウム @兵庫県立美術館 (P4参照)

6月25日 講座事業: CPRDとの打合せ @東京

6月25日 市民ファンド推進連絡会総会&設立1周年記念フォーラム「市民ファンドの価値」 @東京 主催:市民ファンド推進連絡会、江口:出席

6月26日 シスメックス社・打合せ

6月28日 ひょうごNPO研究会

7月5日 キャパシティビルディングフォーラム @東京  
主催:パナソニック社 江口:パネル登壇

7月19日 講座事業:書類審査

7月19日 神戸市アドバイザー派遣事業 MTG

7月25日 助成事業:申請受付開始(～8月31日)

【会議等】

5月8日 会計監査(佐藤・森田監事)

5月15日 平成24年度第1回理事会

平成24年度定時総会に付議する事項、審査員選任について審議

5月31日 平成24年度定時総会(詳しくはP2-3参照)

7月23日 しみる基金 KOB E 助成事業・理事・審査員合同会議

7月30日 平成24年度第1回四役運営会議

「ずっと・ところ・つなぐ」基金のサロン事業、新寄付システム(仮称・買い物de寄付)、HP寄付ページ改定案、寄付文化醸成セミナー事業、シスメックス社・助成プログラム設計企画



## 東日本大震災被災者支援ボランティア活動基金(愛称:ずっと・ところ・つなぐ基金)創設記念

6.23 上映会 & シンポジウム ご報告と御礼

6月23日(土)12時から、兵庫県立美術館1Fミュージアムホールにて、しみん基金 KOBE 主催で東日本大震災被災者支援「ずっと・ところ・つなぐ基金」創設記念上映会 & シンポジウムを開催しました。

当基金では、昨年7月に神戸新聞社等との協働で、『東日本大震災被災者支援 / 日本を元気に！チャリティ コンサート』を開催し、その収益金を被災者支援のボランティア活動を行っている4つの団体へ助成しました。

ただ、阪神・淡路大震災後の復興プロセスの経験から考えてみても、これからまだまだ長く続く復興の道のりを、長期的に継続的な支援を行うしくみが必要であることは明らかです。そのために当基金では、「東日本大震災被災者支援ボランティア活動基金(愛称:ずっと・ところ・つなぐ基金)」を創設し、映像作品の上映と関係者のトークを組み合わせ対話的なサロンを定期的開催することを通じて、震災の記憶を風化させることなく、助成金のファンドレイジングのみならず、被災地の内と外や支援団体同士の想いを共有する交流の場を創出し、継続的な支援を行っていくための仕組みづくりに取り組んでいくことになりました。

当日の上映会 & シンポジウムは、そのキックオフ・イベントとして開催致しました。

第1部では、フランスの震災支援非営利団体「Association GANBALO」が制作したドキュメンタリー映画『東北 再興の記録 3.11』を、関西で初めて上映しました。この作品は、瓦礫の中から立ち上がり、歩みだした気仙沼の人々の勇気と希望をテーマとしていて、廃校が決まっている気仙沼女子高校の吹奏楽部の高校生たちの変容を中心に描いたものです。アンケートでは、「希望」を与える側になるように！というメッセージに感動しました、と書かれた方がいらっしゃいました。ここで描かれている復興の様相は、広い被災地で繰り返されているだろう様々な物語のほんのひとコマに過ぎないのですが、マスコミでは伝えきれない若い人たちの復興へ立ち向かう等身大の姿に、かえって被災地外に住む我々が「希望」を与えられたのではないかと、思います。

第2部のシンポジウムでは、昨年度当基金が助成した4つの団体(トモニプロジェクト、(特活)よらず相談室、チーム神戸、(特活)ダンスボックス)から、それぞれの活動報告とこれからの課題について発表頂きました。アンケートでは、発表を通じてこの「余震」のケアなどこれまで知らなかったいろいろな活動があるということを知ることができたことや、後方支援の大切さに気づかされたことなど、多くの感想が寄せられました。人は人とのつながりの中で救われること、そのための支え合い助け合いのサイクルを後方にいる我々もその人らしく行うことができる、ということが感じられたのではと思います。



第3部では、同じく「Association GANBALO」が制作したアニメーション『気球に乗ったオーケストラ』を上映しました。この作品は、実際に気仙沼であったエピソードを題材に作られたものです。ほのぼのとした映像の中に、いのちと愛の大切さを感じられたのではないかと、思います。

今回のイベントによる収益金は、「東日本大震災被災者支援ボランティア活動基金(愛称:ずっと・ところ・つなぐ基金)」に積み立てて、今年度以降の助成事業の中で「東日本大震災で被災された方々への支援のためのボランティア活動」への特定枠を設定し、被災された方々へのボランティア活動を行う KOBE の団体への助成金として活用いたします。

最後に、この度の上映会 & シンポジウムを開催するにあたりましては、ご協力頂きました各団体には大変お世話になりました、誠にありがとうございました。合わせて、開催にあたりまして、広報や当日のボランティア・スタッフなどご協力頂きました皆様方にも感謝いたします。

そして、何よりも当日ご参会頂きました皆様方には、厚く御礼申し上げます。

今後も皆様方から託された想いが、どのような形で生かされていくのかをお伝えしていきたいと思っておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

\*

協賛: ASSOCIATION GANBALO, FRANCE / がんばろう  
気仙沼

協力: シスメックス株式会社 / 近畿ろうきん・近畿ろうきん  
NPO パートナースHIP制度 / 株式会社フェリシモ /  
住友ゴム株式会社 / ボックサン / 岡本商店街振興組  
合 / ギャラリー島田 / 特定非営利活動法人阪神高  
齢者障害者支援ネットワーク / 被災地 NGO 協働セン  
ター / 特定非営利活動法人神戸まちづくり研究所  
後援: 株式会社神戸新聞社 / 一般社団法人神戸青年会  
議所



17年目のひとり言  
～忘れてはいけないこと～

先日、高校の同窓会を開催した。有志による実行委員会のメンバー20名程が、それぞれ手分けをし、数ヶ月前から準備をして臨んだ訳なのだが、言い出しっぺとして、オープニング映像を担当することになった。テーマは、あの頃（昭和50年代）と現在の神戸。

映像の企画を進めていく中で、阪神・淡路大震災の映像の取り扱いについて、大いに頭を悩ました。現在の神戸を語る上で、震災を外すことは出来ない。しかし、地元だけに、同窓会に出席する人たちの中には、ひょっとすると肉親を亡くされた方がいるかもしれない。その方がこの映像を見た時、どんな感情を持たれるか……。悩みに悩んだ末、最終的に震災の映像と、その後の1・17映像も盛り込むことに決め、映像は完成、同窓会のオープニングを飾った。

震災映像を盛り込んだ理由は、現在の神戸の街は「あの日失われた尊い命」の上にあること、そして、私たちは決して「あの日」を忘れないという思いからだ。あれから17年、市民活動に携わる私たちの原点である「あの日」起こったこと、そして、何故に市民活動が必要とされたのかを忘れてはならない。

しみん基金・KOBÉ 専務理事 瀬戸口仁三郎

会員数とご寄付のご報告

正会員 個人 38名 団体 4名  
賛助会員 個人 40名 団体 10名  
(2012年7月末現在)

寄付・募金合計金額 593,886円

寄付者・募金一覧(敬称略・順不同)

ずっと・こころ・つなぐ基金創設記念上映会&シンポジウム

(6/23)及び試写会(5/22)の参加者の皆さん

シスメックス(株)、近畿ろうきん、(有)ポック

(特活)阪神高齢者障害者支援ネットワーク

高石 好志、和田 修、中嶋 美津子、溝口 幸子

小林 正平、井上 由起子、田中 かをり

オレンジスリフティ、中島 秀男、飛田 雄一

(2012年4月～7月)

「ずっと・こころ・つなぐ基金」へのご寄附を呼びかけましたところ、多くの方々から御厚志を賜りました。心より御礼申し上げます。

次号の予告(2012年11月頃発行予定)

・平成24年度しみん基金 KOBÉ 助成事業の結果報告など

「しみん基金・KOBÉ」の運営を支えて下さる賛助会員と寄付を募集しています。

個人会員 年間 3,000円  
団体会員 年間 10,000円



お申し込みは電話・FAX・メールなどで、お名前・ご住所・電話番号をお知らせください。

振込口座 三井住友銀行 三宮支店 普通 7965892  
みなと銀行 本店営業部 普通 1597921  
近畿ろうきん 神戸支店 普通 4161854  
郵便振替 00990-5-157334  
口座名義 「しみん基金・こうべ」

あとがき

ロンドン五輪のサッカー男子予選、日本は優勝候補のスペインに1-0で勝利し、「グラスゴーの奇跡」と報じられた。どうみても無理と思えることが、現実化するという事は、ときには起こりうる事なのかもしれない。逆に、無理だと思って最初からチャレンジしないから、現実化しないだけとも言えるのだろう。

『全力でチャレンジさえしていれば、奇跡や不可能は思ったよりも頻りに現実化する。』 (え)